

知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて

学都
仙台 SENDAI
宮城 MIYAGI

サイエンスデイ

2025

科学の“プロセス”を 子どもから大人まで 五感で感じる日

大学・研究所・企業^{など}
による約 100 の科学
プログラムを体験！

Illustrated by Yoshie OHKUSA

五色のサイエンスの文字は、「五感で感じる」と「科学の多面性」を表しています。また黒箱は、「ブラックボックスを開けること」と「多様な主体が一堂に集う場」を表しています。

2025/07/20日
9:00 ~ 16:00 入場無料

会
場
メ
イン

東北大学 川内北キャンパス講義棟 等
仙台市青葉区川内 41

主催：特定非営利活動法人 natural science

共催：東北大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所東北センター、東北大学多元物質科学研究所、仙台市教育委員会、東北工業大学、
※昨年度実績
(申請中)
仙台高等専門学校、公益社団法人応用物理学会東北支部、一般社団法人日本物理学会東北支部、一般社団法人電子情報通信学会東北支部、
公益社団法人日本金属学会東北支部、公益社団法人日本分光学会東北支部、東北大学知の創出センター、東北大学工学研究科・工学部創造工学センター

後援：文部科学省、内閣府知的財産戦略推進事務局、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、東北経済産業局、国立研究開発法人科学技術振興機構、一般社団法人東北経済連合会、東北工学教育協会、
※昨年度実績
(申請中)
仙台管区気象台、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、東北学院大学、東北生活文化大学、東北医科薬科大学、
公益財団法人東北活性化研究センター、一般社団法人みやぎ工業会、宮城県中小企業団体中央会、公益財団法人みやぎ産業振興機構、一般社団法人宮城県発明協会、仙台商工会議所、仙台経済同友会、
一般社団法人情報処理学会東北支部、一般社団法人日本機械学会東北支部、公益社団法人日本化学会東北支部、一般社団法人映像情報メディア学会東北支部、
一般社団法人日本光学会、一般社団法人電気学会東北支部、公益社団法人日本天文学会、公益社団法人土木学会東北支部、一般社団法人日本建築学会東北支部、
公益社団法人日本建築家協会東北支部、公益社団法人空気調和・衛生工学会東北支部、公益社団法人日本水産学会東北支部、公益社団法人計測自動制御学会東北支部

出展のご案内

申込締切日
2025 年
6月20日(金)

<http://www.science-day.com/>

開催趣旨

近年、我が国の科学技術研究および産業競争力の強化を実現する「科学技術創造立国」の基盤を揺るがす深刻な問題として、子どもたちの「理科離れ」が叫ばれています。「理科離れ」は単に「個人的に理科が嫌い」という問題ではなく、理科を学ぶ過程で本来養われるはずの「知的好奇心」や「論理的思考力」等の低下を意味しています。その結果として、文理問わず高等教育を理解できない学生が増大し、大学教育の質の維持が著しく困難に陥っているというかたちで問題は顕在化しており、もはや「理科離れ」問題は、国民全体による知の問題、すなわち社会的リスクであると捉えられています。

これらの社会的背景に、社会の細分化・複雑化に伴い、個々は専門家に任せ、表面だけを利用するブラックボックス化が進んだことがあります。その結果、わたしたちは効率性と引き換えに、本来そこにあるはずの自己と対象との関係性を実感することが困難な状況に陥っています。しかしながら本来、自己と対象との関係性の集積が、すなわち社会です。この自己と対象との関係性が見えない危機こそが、個人・地域社会・国レベルでの問題の本質的な原因と natural science では捉え、そこから解決策を見出していきます。

自己と対象との関係性を実感しやすい範囲として、natural science は社会の中でも特に“地域”に着目します。自分が社会に与えている影響と自分が社会から受けている影響を実感できることで、人は自らの社会的存在意義を自覚し、主体的に活動することができます。このようなひとり一人の内発的モチベーションによる主体的なアクティビティーが、地域をつくり、そして社会全体をつくるドライビングフォースとなります。つまり“地域”こそが、社会をつくる基盤であると同時に、社会全体をつくる原動力として、大きな可能性を秘めているのです。

そもそも「科学」の本質は観察からはじまります。対象に直接触れ、自分の目で見て、自己と対象との関係性を五感で感じることなしに、知的好奇心・論理的思考力が養われることはありません。「科学」と言うと「科学は専門家だけが知っていればいい」と自己と科学との関係性を認識しようとしめない風潮や、または成果ばかりが注目されがちですが、そこに至るまでのプロセスにこそ、知的好奇心や論理的思考力をはじめとする、科学的なものの見方・考え方、すなわち自己と対象との関係性を構築する姿勢が隠されています。

natural science では、知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて、「科学」を切り口に、自己と対象との関係性の可視化・再構築の場として機能することを「科学で地域づくり」と位置づけ、日々の科学教育プログラムの開発・実施のほか、大学・研究機関や企業、行政・教育機関等と連携し、2007年から毎年、体験型科学イベント『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を開催しています。『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は、「“科学”って、そもそもなんだろう？」をテーマに、製品や成果等の“結果”だけでなく、科学や技術の“プロセス”を五感で感じられる場づくりを通じて、子どもから大人まで、各人各様の感じ方から自己と対象との関係性を可視化・再構築する場として機能することを目指すものです。

そもそも人間は生まれながらにして知ることを欲する存在です。そして生まれた創造物が共有されることは喜びです。この認識に立つ時、科学は人の本性に根ざすものとなり万人のものとなるでしょう。こうした共感の輪を生み出す循環こそが、人間の本来持つ内発的モチベーションがさらに発揮され、次、その次に登場する科学や技術が継続的に生み出され、わたしたちの心豊かな社会が達成されていく土壌となるはずです。

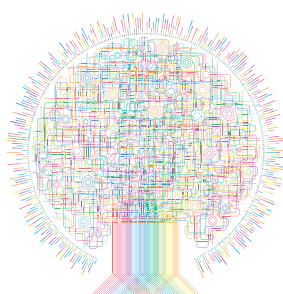
知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に資することを願って、19回目を迎える今年も『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を開催いたします。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

特定非営利活動法人 natural science

大草 芳江

開催概要

- 名 称..... **A** 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025 (第19回)
B サイエンス・デイAWARD2025表彰式・交流会
C サイエンス・デイ オブ ザ イヤー2025表彰式
- 会 期..... **A** 2025年7月20日(日) 9:00~16:00 ※2025年7月19日(土) 会場設営準備
B 2025年7月28日(月) 14:00~17:00 予定(創設された賞数により決定)
C 2025年8月(調整中)
- 会 場..... **A** 東北大学 川内北キャンパス 講義棟(仙台市青葉区川内41)等
B 東北大学 青葉山キャンパス サイエンスキャンパスホール(仙台市青葉区荒巻青葉6-6)
C (調整中)
- 主 催..... 特定非営利活動法人 natural science (2007年6月設立)
- 共 催..... 東北大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所東北センター、東北大学多元物質科学研究所、仙台市教育委員会、東北工業大学、
※昨年末実績(申請中) 仙台高等専門学校、公益社団法人応用物理学会東北支部、一般社団法人日本物理学会東北支部、一般社団法人電子情報通信学会東北支部、
公益社団法人日本金属学会東北支部公益社団法人日本分光学会東北支部東北大学知の創出センター東北大学工学研究科工学部創造工学センター
- 後 援..... 文部科学省、内閣府知的財産戦略推進事務局、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、東北経済産業局、国立研究開発法人科学技術振興機構、一般社団法人東北経済連合会、東北工学教育協会、
※昨年末実績(申請中) 仙台管区気象台、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、東北学院大学、東北生活文化大学、東北医科大学、
公益財団法人東北活性化研究センター、一般社団法人みやぎ工業会、宮城県中小企業団体中央会、公益財団法人みやぎ産業振興機構、一般社団法人宮城県発明協会、仙台商工会議所、仙台経済同友会、
一般社団法人情報処理学会東北支部、一般社団法人日本機械学会東北支部、公益社団法人日本化学会東北支部、一般社団法人映像情報メディア学会東北支部、
一般社団法人日本光学会、一般社団法人電気学会東北支部、公益社団法人日本天文学会、公益社団法人土木学会東北支部、一般社団法人日本建築学会東北支部、
公益社団法人日本建築家協会東北支部、公益社団法人空気調和・衛生工学会東北支部、公益社団法人日本水産学会東北支部、公益社団法人計測自動制御学会東北支部、
日刊工業新聞社東北・北海道総局、読売新聞東北総局、毎日新聞仙台支局、朝日新聞仙台総局、河北新報社、TBC 東北放送、仙台放送、KHB 東日本放送、NHK 仙台放送局、ミヤギテレビ、エフエム仙台
- 入場料..... 無料
- 対 象..... 子どもから大人までどなたでも
- 来場見込... 約1万人
- 出展費用... 無料(ただし出展に関わる費用は各自で負担ください)
※ 手弁当モデルによる自立運営のため運営協力へのご協力をお願いします(☞「運営協力(協賛)のお願い」)。
- 出展募集... リアル会場での出展(講座プログラム型、体験ブース型)のほか、オンライン出展やハイブリッド出展も可能です。
- 参 考..... 通常開催時の出展規模
- A** 出展者数(2024年度)・・・のべ157団体
プログラム数・・・合計125プログラム
◆ 講座プログラム型 : 計47 プログラム(計173回実施)
◆ 体験ブース型 : 70 ブース
◆ 『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ～光編～』リアル版: 計8ブース
- B** サイエンスデイAWARD賞創設(2024年度)・・・計70賞
- C** 文部科学大臣賞1件、JST理事長賞1件、東北大学総長賞1件、宮城県知事賞1件、仙台市長賞1件、東北経済産業局長賞1件、ベストプレゼンター賞2件
- 問合先..... 特定非営利活動法人 natural science (担当: 大草芳江)
仙台市青葉区北目町4-7 HSGビル7階
Tel/Fax. 022-721-2035 Mail. info@natural-science.or.jp
『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』公式Webサイト <http://www.science-day.com/>



科学・技術の地産地消

SCIENCE COMMUNITY

サイエンスコミュニティ

詳細はこちら >>> <http://science-community.jp>

企画概要

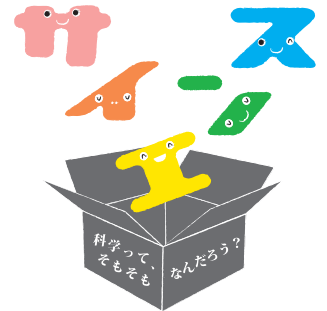
科学のプロセスを子どもから大人まで五感で感じる日

社会の成熟化に伴い、科学や技術はブラックボックス化し、わたしたちは便利さと引き換えに、科学や技術の“プロセス”を五感で感じる機会を失ってきました。しかしながら、科学や技術のもたらす“結果”のみを一方的に享受するだけの姿勢では、科学離れや科学リテラシー不足などの社会的リスクを回避することはできません。

一方で、ここ仙台・宮城は、「科学」という切り口で見ると、大学・研究機関、民間企業や行政・教育機関等が密集し、研究者や技術者等が日々研究・開発等の活動を行い、わたしたち市民の生活と科学・技術が隣り合わせで存在する、古くから「学都」と呼ばれる地域です。

この地域の特性を活かし、「科学って、そもそもなんだろう？」をテーマに、大人も子どもも、普段科学に触れている人も触れていない人も、科学や技術の背景にある“人”や“プロセス”を自らの五感で感じられる場として、『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を毎年開催します。

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は、「科学」を切り口に地域を再発見し、関係性再構築の場として機能することで、知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に資することを目指します。



五色のサイエンスの文字は、「五感で感じること」と「科学の多面性」を表しています。また黒箱は、「ブラックボックスを開けること」と「多様な主体が一堂に集う場」を表しています。

ステップと期待する効果

第1フェーズ (2007年～)

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 科学のプロセスの多様性を可視化し再発見する

ステップ① 科学の“プロセス”を体験

各出展団体の現場の“人”が「おもしろい」と思う“プロセス”を形にした体験型プログラムを通じて、普段なかなか実感できない科学や技術の“プロセス”を体感することで、子どもから大人まで、各人各様の感じ方から自然な形で興味・関心が喚起される。

ステップ② 研究者や技術者等の現場の“人”との対話

喚起された興味・関心は各人各様であり、それぞれの人が「知りたい」と思うところから、研究者や技術者等の現場の“人”との対話を通じて、各自が興味・関心を深めることができる。

ステップ③ 生活の中で関連事項と遭遇

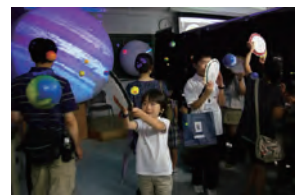
本企画は地域資源で構成されているため、本企画終了後も、市民が普段の生活の中で関連事項と遭遇する機会は多い。これまで何気なく利用していた製品や成果等の“結果”を見ても、本企画をきっかけに“プロセス”があることを想像でき、興味・関心が継続し、身近に感じられる効果が期待される。

ステップ④ 年間を通じた科学イベントへの参加

本企画の“見本市”的な特徴を活かし、『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』会員登録により、各団体が開催する一般向け科学イベント（一般公開や市民講座など）情報を市民へ直接的・継続的に配信できるシステムを構築することで、年間を通じて市民が科学に触れられる機会を増やす。

ステップ⑤ 地域恒例イベントとして定着化

地域の毎年恒例イベントとして引き続き定着化を図ることで、科学・技術に興味・関心のある人から普段は科学イベントに参加しない人まで幅広い層が科学・技術を楽しむ文化を地域に創出する。



第2フェーズ (2011年～)

サイエンス・デイAWARD 科学のプロセスの価値を複眼的に評価する

ステップ⑥ それぞれの視点からお互いの健闘を褒め称え合う

各主体の取組をそれぞれの視点からお互いに応援し合ったり表彰し合えるしくみをつくることで、相互理解を深め誰もが主体的に参加できる持続可能な『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』の構築を目指す。



第3フェーズ (2016年～)

サイエンス・デイ オブ ザ イヤー 科学を社会に伝えるよい方法論を共有する

（文部科学大臣賞、JST理事長賞、東北大学総長賞、宮城県知事賞、仙台市長賞、東北経済産業局賞、ベストプレゼンター賞）

ステップ⑦ 科学と社会をつなぐ優れた方法論を共有

サイエンス・デイ オブ ザ イヤーの審査を通じて、科学を社会に伝える優れた方法論を発見し、地域で共有化するしくみをつくることで、次なる創造へとつなげていく。



今年のポイント・注意点

☑ 既存の科学コミュニケーション活動の**効果最大化**

●サイエンス・デイのチラシ裏面に、科学イベント情報を掲載できます (県内の全公立小中学校並びに出展高校等に約 23 万部を学校配布予定)

今年下半期に開催される科学イベント情報を一元的にまとめた『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ～科学イベント編～』を今年度もサイエンス・デイのチラシ裏面（県内の全公立小・中学校及び出展高校等に全児童・生徒分の約 23 万部を 6 月下旬～配布予定）を活用して作成し、学校配布をいたします。情報掲載ご希望の方は 5 月末までに [natural science](http://natural-science.or.jp) へご連絡ください。



学都「仙台・宮城」サイエンスマップ科学イベント編

●科学イベント情報告知・申込・受付自動化システムを利用できます (学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ会員：約 3 万 5 千人)

『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』の個人会員（約 3 万 5 千人）むけに、各団体が年間を通じて開催している科学イベント情報を告知し、申込・受付を自動化できる Web システムを利用できます（登録無料）。ご希望の方は Web（<https://science-community.jp>）にご登録ください。



☑ 『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ光編』の**紙版**に加えて**実物展示**も募集

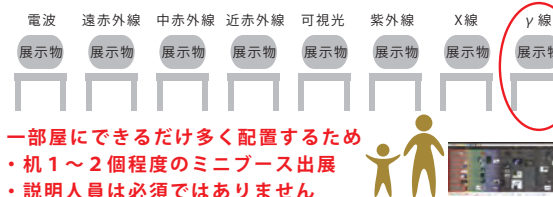
●“光”に関する**ミニブース出展**を募集し、光の波長ごとに並べます

サイエンスデイでは 2014 年度から通常の出展プログラムのほかに、“光”を切り口に地域の科学・技術を可視化する『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ光編』を作成し来場者に毎年数量限定で配布しており好評を得ています。そこで 2018 年度から本マップの実物展示版として、電磁波の波長順に光に関する展示品を並べる“光”ゾーンを会場の講義棟 1 階（来場者数が最も多いエリア）に設置し、来場者が本マップの紙版片手により理解を深めていただく企画も行っています。本企画は一部屋になるべく多くの“光”に関する展示品を並べることで俯瞰した理解をねらいとするため、通常出展とは出展要綱が一部異なり、1 出展あたりの展示スペースは机 1、2 個程度と小さく、説明人員も必須ではありません。通常出展とリンクしたダブル出展も歓迎します。光に関わる研究・開発をされている方はぜひご検討ください。



学都「仙台・宮城」サイエンスマップ光編の**紙版**

電波から γ 線まで、光（電磁波）の波長ごとに情報提供いただいた地域の科学・技術を紹介。（今年も掲載情報を募集し来場者に配布予定）

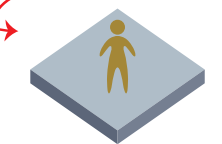


一部屋にできるだけ多く配置するため
・机 1～2 個程度のミニブース出展
・説明人員は必須ではありません

学都「仙台・宮城」サイエンスマップ光編の**実物展示**

光に関する実物展示（ミニブース）を電磁波の波長順に並べる“光”ゾーンを会場内に設置。来場者はマップ片手に回ること理解を深められる。

通常出展への誘導
より深い理解へ



通常出展とリンクした
ダブル出展も歓迎します

☑ サイエンス・デイ オブ ザ イヤー（文部科学大臣表彰 等を予定） ～ 科学を社会に伝えるよい方法論の可視化・共有化 ～

科学・技術を社会・一般に伝える優れた方法論を審査・表彰により可視化・共有化することを目的として、「サイエンス・デイ オブ ザ イヤー」を 2016 年度から実施しています。自己推薦制のため、出展申込書とは別に、所定の自己推薦書を 7 月 5 日（金）までに提出してください（提出先：info@natural-science.or.jp）。



出展概要

1. 日時・会場・料金について

① 学都「仙台・宮城」サイエンスデイ 2025

【日時】2025年7月20日(日) 9:00～16:00

【会場】東北大学川内北キャンパス講義棟等(仙台市青葉区川内 41) **地図①**

【費用】無料(ただし出展に関わるその他の費用はご負担ください)

【お願い】「**手弁当モデル**」による自立運営のため、運営協力(協賛)へのご理解・ご協力をお願いいたします(詳細は「**運営協力(協賛)のお願い**」)

② サイエンスデイ AWARD2025 表彰式

【日時】2025年7月28日(月) 14:00～17:00 予定(賞創設数により決定)

【会場】東北大学サイエンスキャンパスホール(仙台市青葉区荒巻青葉 6-6) **地図②**



2. 出展内容について

下記2点を満たす体験型プログラムを募集します

① 科学や技術の「プロセス」を感じられること

② 現場の「人」と直接対話できること

※研究者・技術者等が「おもしろい」と思う科学のプロセスをぜひ形にしてください。



3. 出展ブース・備品について

- ① **ブース形態** : 「体験ブース型」もしくは「講座プログラム型」からお選びください。 ※オンライン、ハイブリッド出展も可能です。
- ② **希望出展面積** : ご希望を伺いながら調整いたします。※全体のスペース調整の兼ね合いで決定するため、ご希望に添えない場合もございます。
- ③ **電源の利用** : 電源利用の場合、申込用紙にご記入ください。※一教室当たりの電気容量は合計 45A(照明や空調等を含む)です。

体験ブース型 (予約不要)	講座プログラム型 (要予約制)
  【特徴】 ●多くの来場者が入退場自由で参加できるプログラムに適しています。 ●必要スペースに応じて教室を複数団体でシェアして使用します。 ★会場割振は出展申込締切後調整。協賛PRブース出展申込で専有確定 ●付属備品の机・椅子は前日午後～窓側に寄せます(バックヤード)。 - その中から必要分を、各出展者で自由に配置してご利用ください。 【付属備品】 ●机・椅子	  【特徴】 ●体系的な解説を伴う工作・実験・講演等のプログラムに適しています。 ●定員(20～30人程度)や対象を設定できます。 【付属備品】 ●机・椅子 ●液晶プロジェクター・電動スクリーン・遮光カーテン・ビデオ装置 ●ハンドマイク、ピンマイク ★混雑緩和のため各出展ブースにて当日受付を実施ください。

【注】①付属備品以外はすべて出展者でご用意ください(延長ケーブルやパネルボード、PC等はありませんので各自ご持参ください)。
②会場内は**火気厳禁・禁煙**です。

4. 搬入・搬出について

- 物品・パネル等の搬入・搬出は、各出展者でご負担をお願い申し上げます。
 - 前日の7月19日(土)に搬入・準備希望の場合、会場割振の関係上、申込書の「前日準備」欄にチェックを入れてください。
 - 当日の7月20日(日)の搬入・準備は7:00～9:00、搬出・片付は16:00～18:00(車両乗入は～8:30、16:30～厳守)です。
 - 清掃用具やゴミ袋の持参、展示後の付属備品の現状復帰・清掃にご協力ください。展示後の物品やゴミ等は各自お持帰りください。**
 - 出展者限定で駐車場を会場内にご用意しております(来場者用の駐車場は会場内にございません)。
- ※搬入・搬出ルートや駐車場などの会場地図、会場割振図を含めた「出展マニュアル」は、7月5日(土)頃に一齐送付予定です。

5. 申込方法・締切日について

『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ』Webサイト(www.science-day.com)の「出展案内・出展申込」から、お申し込みください。
＜申込方法1＞Webフォームからの申込あるいは＜申込方法2＞ExcelのE-mail送付による申込から選べます(申込方法1を推奨)。

【申込締切日】6月20日(金):出展申込第一締切(※)、協賛(運営協力)、学都「仙台・宮城」サイエンスマップ光編

6月27日(金):出展申込最終締切(※)、サイエンスデイ AWARD 賞創設、

7月11日(金):サイエンスデイ オブザイヤー自己推薦書

※6月20日(金)までに提出された「出展プログラム名」と「団体名」はチラシ(約23万部配布予定)掲載、Webは申込順に掲載。

出展申込書の内容がそのままWeb掲載されます

出展申込第1締切日：2025年6月20日（金）

※ 第1締切日6月20日（金）までに提出された「出展プログラム名」及び「団体名」をチラシ（約23万部配布予定）に掲載するため、まず出展プログラム名及び団体名のみでも結構ですので、先にお申込ください。その他の出展プログラム情報については、最終締切日6月27日（金）までにWebフォームから追加登録いただく形で問題ございません。

① 出展申込書の内容がそのまま当日配布パンフレット及びWebに掲載されます

35

A403

「無線」って何だ？ AMラジオを作ろう！

（日本無線株式会社）

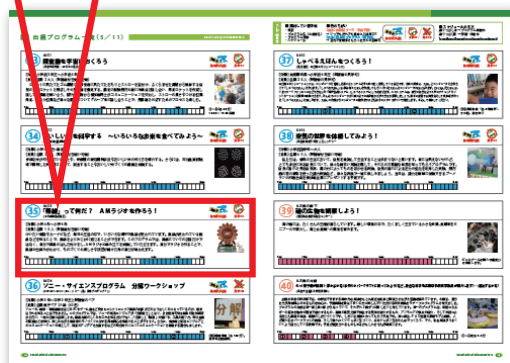
整理券
整理券が必要

見学 OK

【対象】 小学4年～小学6年

【定員】 各回15人（保護者付き添い可能）

けいたい電話やカーナビなど、毎日の生活の中で、いろいろな場所で無線が使われています。無線が使われている製品などを知ること、無線をより身近に感じることができます。このプログラムでは、無線についてのお話だけではなく、自分で部品のはんだ付けをし、AMラジオの組み立てを体験していただきます。自分でラジオを作ること、無線の仕組みがわかり、ものづくりの楽しさや放送が聞けた時の喜びが味わえます。



【図1】 当日、来場者に配布するガイドブックでの紹介



【図2】 同一内容をWEBにも掲載（左：一覧、右：内容）

② 当日配布パンフレットに掲載できる画像（アイコン）は1点までですが、Webには複数の画像や動画の掲載（YouTubeを利用した動画の埋め込み）が可能です。

来場者や審査員に出展内容を伝えるため動画の掲載を推奨します

来場者や審査員（サイエンスデイ オブ ザ イヤー、及び、サイエンスデイ AWARD 賞創設者）が出展プログラム内容をより深く理解するための手段として、PR 動画の掲載を推奨します。特にサイエンスデイ オブ ザ イヤー自己推薦団体には、PR 動画掲載を強く推奨いたします。

● 動画の掲載方法

出展者のYouTubeアカウントに動画をアップロードし、埋め込み用コードを取得してください。Web フォームあるいは出展申込書の該当箇所に埋め込み用コードを記入してください。



YouTube を利用した動画の埋め込み

サイエンスデイAWARD（賞創設者の募集）



Scienceday AWARD 2025

あなたが「よい」と思ったプログラムに、あなたの賞をあげませんか？

サイエンスデイ AWARDは、現代社会では実感する機会の少ない科学や技術の“プロセス”の中からよいプロセスを選び、顕彰することを通じ、私たちの社会がより心豊かなものとなることをめざした活動です。

サイエンスデイ AWARDは、いわゆる科学・技術のコンクールではありません。一般的な科学・技術の評価制度は、その成果を評価しています。しかし、サイエンスデイ AWARDは、その結果に至るまでのプロセスが、「知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に資する」という観点、つまり、科学や技術の成果だけでなく、科学的なものの見方や考え方、科学に対する姿勢という視点から評価をおこないます。

そもそも科学や技術は自然や社会に根ざした思考であり、自然や社会に密着した様々なものごとを生み出す方法論です。したがって、極めて優れた科学や技術の成果が登場しても、その結果を単に利用するだけでは、真に心豊かな社会を創造することはできません。優れた科学や技術の“プロセス”が共有されることにより、次、その次に登場する科学や技術が継続的に生み出され、さらなる心豊かな社会が達成されていく。そうした共感の輪をつくりだす場となるのが、サイエンスデイ AWARD創設の目的です。

また、サイエンスデイ AWARDは、よいプロセスを誰もが共有できるよう、そのよさを第三者の視点から残すことをめざしています。わたしたちが心豊かな社会を生きるために、科学や技術は必要であり、わたしたち一人ひとりが科学や技術を理解していかなければならない時代です。つまり、よい科学や技術は、その思考、方法論を誰もが活用できなければ、存在意義をはたせません。その思考、方法論が、様々な活動において私たち一人ひとりが次のよりよい科学や技術、そして社会を創造する原動力となることを、サイエンスデイ AWARDは願っています。

そもそも、よい科学や技術とは何か。そこには、さまざまな視点があります。そのため、サイエンスデイ AWARDでは、複眼的な視点から評価できるよう、個人・団体を問わず誰でも賞を新設することができることとし、審査会場を『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ』として一般公開するなど、開かれた審査を行います。よい科学や技術とは、そもそも何か。サイエンスデイ AWARDは、参加する一人ひとりがそれを考え、自由に提案することを通して、心豊かな社会を模索し創造する場となることをめざしています。

審査・表彰のプロセス

ポイント

- ① 賞は、個人・団体を問わず、誰でも創設することができます。
- ② サイエンス・デイ出展プログラムすべてが審査・表彰の対象となります。
- ③ 賞創設者はサイエンス・デイ当日に会場を楽しみながら審査し、後日開催される表彰式にて受賞者の健闘を褒め称えてください。

必要なもの

- ・賞創設に関わる費用：無料（賞創設・審査・表彰等に関する経費はご負担ください）
- ・ご用意いただくもの：賞名、賞創設者名、審査基準、副賞、（審査後）授賞理由

スケジュール

- 6月27日（金）まで提出
- ・賞および賞創設者の名称（表彰状に掲載）
 - ・審査基準
- 7月20日（日）当日
- 7月22日（火）まで提出
- 7月28日（月）午後2時～
- 【学都「仙台・宮城」サイエンスデイ会場での審査】
 - ・授賞結果（翌日にノミネート団体発表のため）
 - 【サイエンスデイ AWARD表彰式での表彰】
 - ・授賞理由および副賞（賞創設者の特長を活かした何か）
 - ※副賞は賞創設者と受賞者で直接やり取りください
 - ※表彰状は事務局でご用意します（後日郵送します）

Scienceday AWARD 表彰式

【日時】2025年7月28日（月）14時～予定
【会場】東北大学サイエンスキャンパスホール

- ・サイエンスデイ AWARD表彰式では、賞創設者並びに受賞者から1分ずつのプレゼン形式となります。プレゼンは「サイエンスデイ オブ ザ イヤー」の自己推薦者の審査も兼ねています。
- ・表彰結果はホームページで発表します。



【図】表彰状のイメージ



【写真】これまでの表彰式の様子



サイエンスデイ オブ ザ イヤー (出展者から自己推薦書を募集)



Scienceday of The Year

科学を社会に伝えるよい方法論を審査・表彰を通じて共有化

「科学を社会に伝える方法論」が最も優れている出展プログラムを審査し「サイエンスデイ オブ ザ イヤー」として表彰することで、科学を社会に伝える“よい”方法論を共有化することを目的とした表彰制度です。「文部科学大臣賞」「JST 理事長賞」「東北大学総長賞」「東北経済産業局長賞」「宮城県知事賞」「仙台市長賞」「ベストプレゼンター賞」を予定しています。

●「文部科学大臣賞」「東北大学総長賞」「東北経済産業局長賞」「宮城県知事賞」「仙台市長賞」は、『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』の出展内容及び「サイエンス・デイ AWARD 表彰式」での1分プレゼン内容、並びに自己推薦書を審査対象とし、サイエンス・デイ オブ ザ イヤー審査委員会による審査により決定します。「JST 理事長賞」は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の審査によって決定します。「ベストプレゼンター賞」は、サイエンス・デイ AWARD 表彰式における会場投票によって決定します。

● サイエンス・デイ オブ ザ イヤーは自己推薦制です。審査を希望する出展者は自己推薦書（形式指定）を締切日までに提出ください。



- 👑 文部科学大臣賞
- 👑 JST 理事長賞
- 👑 東北大学総長賞
- 👑 東北経済産業局長賞
- 👑 宮城県知事賞
- 👑 仙台市長賞
- 👑 ベストプレゼンター賞

審査員 (敬称略、五十音順)

内田 龍男 (東北大学名誉教授、仙台高等専門学校名誉教授)
江刺 正喜 (東北大学名誉教授)
川添 良幸 (東北大学未来科学技術共同研究センターシニアリサーチ・フェロー、科学協力学際センター代表理事)
佐藤 一郎 (東北生活文化大学学長、東京藝術大学名誉教授)
末光 眞希 (東北大学名誉教授、宮城学院女子大学元学長)
野家 啓一 (東北大学名誉教授、元日本哲学会会長)



学都「仙台・宮城」サイエンスマップ～光編～ (光に関する研究・開発情報の募集)

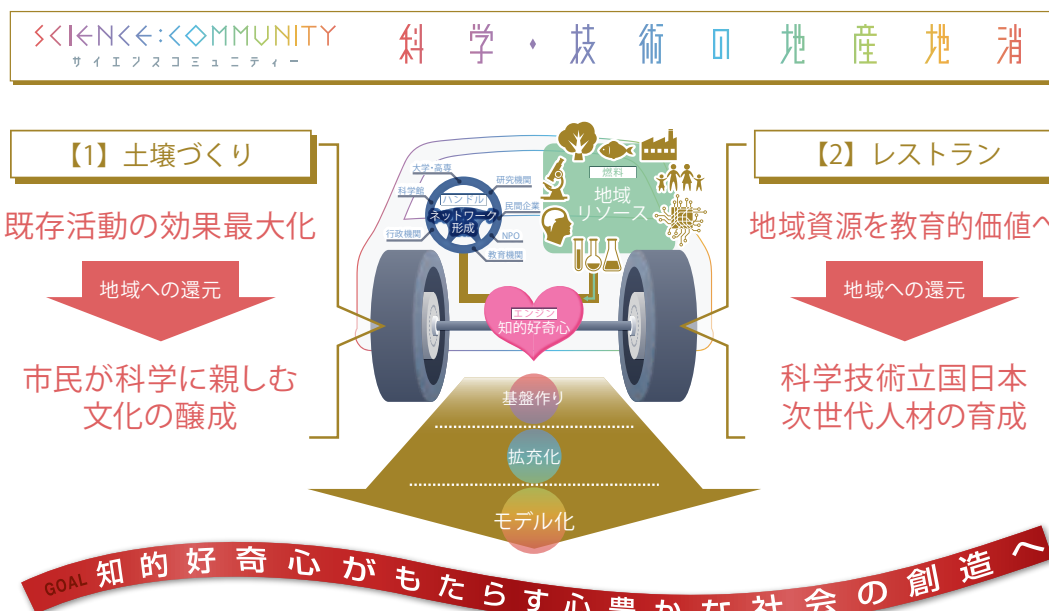
学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティでは、「科学・技術の地産地消」と銘打ち、地域の多様な科学のプロセスを可視化・共有化する場づくりを目指しています。その一環として、“光”を切り口に、地域の科学・技術を可視化するマップ『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ光編』を作成し、学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ団体会員からご提供いただいた全情報（2023年度：計103件）を光の波長ごとに掲載し、来場者に数量限定で2014年度から毎年配布しています。光に関する研究・開発をされている研究機関や企業の皆さまはぜひ情報提供をご検討ください。また、掲載情報の更新をご希望の方も、事務局までご連絡ください。



学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ
(既存活動の効果最大化)

『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』は、大学・研究機関や企業等が集積する学都「仙台・宮城」の地域特性とポテンシャルを活かし、この地で生まれた科学の“結果”だけでなく“プロセス”が、教育的価値として地域に還元される循環を「科学・技術の地産地消」と名付け、その実現を目指して形成されました。「科学・技術の地産地消」の構築により、知的創造力が資源である我が国の将来を担う人材育成に携わっている“実感”を共有できるコミュニティを形成することで、新たな科学が継続的に生まれる文化の醸成を目指しています。本趣旨に賛同する既存の枠を超えた多様な主体と連携のもと、『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は手弁当モデルによる持続可能な運営により、毎年開催されています。『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を核に、既存の科学コミュニケーション活動の効果最大化を図ることで、市民が科学に親しむ文化の醸成を図ります。

学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ



ＪＳＴ科学技術コミュニケーション推進事業「ネットワーク形成地域型」平成 25 年度採択事業
(提案機関：宮城県、運営機関：特定非営利活動法人 natural science / コーディネーター大草芳江)

☒ ネットワーク形成による既存の科学コミュニケーション活動の**効果最大化**

サイエンス・デいの周知ツールであるチラシ（約23万部を学校配布）裏面での合同広報に加え、サイエンス・デいの申込受付自動化Webシステム（会員約3万5千人むけ）を、サイエンス・デい以外の各団体主催科学イベント周知にご活用いただけます。

●サイエンス・デイのチラシ裏面に、科学イベント情報を掲載できます
(県内の全公立小中学校並びに出展高校等に約 23 万部を学校配布予定)

今年下半期に開催される科学イベント情報を一元的にまとめた『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ～科学イベント編～』を、今年度もサイエンス・デイのチラシ裏面（県内の全公立小・中学校及び出席高校等に全児童・生徒分の約 23 万部を 6 月下旬～配布予定）を活用して作成し学校配布します。情報掲載ご希望の方は、5 月末までに natural science へご連絡ください。



学都「仙台・宮城」サイエンスマップ科学イベント編

●科学イベント情報告知・申込・受付自動化 Web システムを利用できます
(学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ会員約3万5千人むけ)

『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』の個人会員（約3万5千人）むけに、各団体が年間を通じて開催している科学イベント情報を告知し、申込・受付を自動化できる Web システムを利用できます（登録無料）。ご希望の方は Web（<https://science-community.jp>）にご登録ください。



学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ <http://science-community.jp>

スケジュール

日 時	サイエンスデイ出展者の動き	AWARD 賞創設者の動き	事務局の動き
4月～			◆ 出展案内の公開、出展者申込開始
5月末	●『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ		
6月20日（金）	● 出展申込【第一締切】 ※ 6月20日までに提出された団体名及び プログラム名を告知チラシに掲載（★） ● 協賛（運営協力）申込締切 ●『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ ～光編～』掲載情報申込締切 ●PR 枠（昨年度 AWARD 受賞特典）締切		サイエンス・デイのチラシ裏面にて 今夏以降の科学イベントを合同広報  （表）サイエンスデイ告知  （裏）学都「仙台・宮城」サイエンスマップ科学イベント編
6月27日（金）	● 出展申込【最終締切】 ※ Web フォームから追加登録を完了 ※6月27日までに登録された情報を 当日配布パンフレットに掲載	●AWARD 賞創設申込締切 （賞名・賞創設者名・審査基準）	
6月下旬			★ 告知チラシを県内の全公立小・中学校、 出展高校に全児童生徒分配布（約 23 万部）
7月5日（土）	●「講座プログラム型」来場者による Web 事前申込受付開始（～7月18日（金）） ※出展者は Web ログイン後、申込状況を 随時確認することができ、申込者リスト をダウンロードすることができます。	賞名・賞創設者名・審査基準の Web 公開	◆ 会場割振決定（一斉メール連絡にて通知） ◆「出展マニュアル」の一斉送付予定日
7月11日（金）	● サイエンスデイ オブ ザ イヤー （文部科学大臣表彰等を予定）自己推薦書締切		
7月19日（土）	【学都「仙台・宮城」サイエンスデイ前日】 09:00-16:00 各自会場設営・準備		◆「講座プログラム型」事前申込者へ 事務局から事務連絡
7月20日（日）	【学都「仙台・宮城」サイエンスデイ当日】 09:00-16:00 各自出展	【審査日】 会場等で審査	
7月22日（火）		【提出締切日】 授賞者名だけでもご連絡ください（翌日にノミネート団体発表のため）	
7月23日（水）			◆ ノミネート団体の発表
7月28日（月）	【サイエンスデイ AWARD 表彰式】 午後2時～予定（賞創設数により決定） （注）サイエンスデイ会場とは別会場です	【表彰】 授賞理由ならびに副賞の授与	
8月で調整中	【サイエンスデイ オブ ザ イヤー贈賞式】 （注）サイエンスデイ会場とは別会場です		